



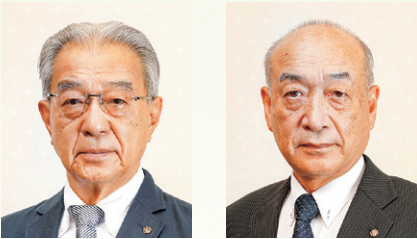
コウノトリ 写真提供:第17回 コウノトリ写真コンクール 但馬信用金庫賞「吉備路にて」井元 清 様

1971年に日本の空から姿を消した野生のコウノトリ。国内最後の生息地だった豊岡では、半世紀以上にわたりコウノトリの「いのち」を育む取り組みが行われ、今では野外に200羽を超えるコウノトリが暮らしています。

Contents

当金庫の事業方針.....	03	お客様に「安心」「安全」に	
当金庫の概況.....	04	お取引いただくために.....	25
但馬信用金庫と地域社会.....	05	財務の状況.....	35
中小企業の経営支援		注記事項.....	37
及び地域活性化への取組み.....	07	預金の状況.....	40
主な商品・サービスのご案内.....	11	貸出金の状況.....	41
おすすめ商品・サービスのご案内.....	14	有価証券の状況.....	44
主な手数料のご案内.....	19	有価証券・為替の状況.....	46
総代会.....	21	経営指標その他.....	47
役員・組織.....	23	自己資本の充実の状況.....	50
たんしんのあゆみ.....	24	店舗紹介.....	57
		キャッシュコーナーのご案内.....	58

ごあいさつ



会 長 宮垣 和生 理事長 森垣 裕孝

平素は当金庫をご愛顧いただき、厚くお礼申し上げます。
本冊子は、皆様に当金庫へのご理解を一層深めていただくために作成したものでございます。
当金庫の業績、業務内容などについてご理解いただく一助になれば幸いに存じます。

さて令和4年度の金融経済環境は、経済活動の正常化を背景に内需を中心にコロナ禍で先送りされたペントアップ需要の顕在化などから持ち直しの傾向にあります。個人消費は、エネルギー価格の高騰等や円安の進行による物価高が家計の購買力を下押しするものの、人手不足などによる賃金上昇が底支えとなり、総じて見れば回復傾向にて推移していますが、日銀による金融政策の変更に注意が必要な状況にあります。新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが「5類」へと引き下げられるなど、感染を警戒した消費活動の自粛が縮小することで、消費性向は上昇すると考えられております。

令和4年度は、中期経営計画「原点回帰 新たな扉を開くための挑戦」（令和4年度～令和6年度）の初年度として、持続可能なビジネスモデル構築のために、①顧客との接点の向上による地域密着型経営の強化、②組織力を発揮した提案力の向上、③継続的な信頼を得るための経営管理態勢の強化の3つを基本戦略として掲げ、取り組んでまいりました。

その中で、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けている中小事業者や地域住民に対する支援を通して金融仲介機能を発揮すると共に、withコロナ時代に適応した伴走支援に取り組んでまいりました。

創業支援については、地域クラウド交流会を開催し、当地における創業気運を高める取り組みを行ったほか、山陰海岸ジオパークちいクラを開催するなど、広範囲での活動も行っております。また、「ソーシャル企業認証制度」へ参画し、社会課題解決やESG経営を目指す事業者をサポートすると共に、共感型コミュニティを形成する取り組みを開始しました。さらに、内部事務においては、新グループウェア活用によるPDCAサイクルの強化やWEB会議による情報共有の強化に取り組みしました。

令和4年度の決算につきましては、期末残高で、預金積金は4,819億53百万円、貸出金は1,828億52百万円となりました。当期純利益は、資産の健全性確保のために諸償却並びに諸引当金の繰入れ、資金の効率的な運用、経営全般の合理化に努めました結果、5億3百万円を計上すると共に、自己資本比率も21.78%と引き続き高い健全性を確保しております。

足元では感染症抑制と経済活動の両立が進むもとで、経済活動回復等が期待される一方、コロナ禍からの立ち上がりが遅れる事業者の信用リスクの高まりも予想されることから、事業者のお客様に対しては、令和5年度についても金融仲介機能を発揮し、相談・課題解決への取り組み及びwithコロナ時代に適応した伴走支援を強化すると共に、個人のお客様に対しては引続きニーズを的確に捉えた商品提供に努めてまいります。営業地域が抱える人口減少、地域経済の縮小などの地域の課題に対しきめ細やかなリレーションシップバンキングを推進することにより他行との差別化を図り、持続可能な経営基盤の構築と健全性の維持に努めてまいります。

令和4年度～令和6年度にかけて取り組む中期経営計画では最終年度が当金庫100周年となる節目であり、「スピードと実行力」をもって更にその先にある新たな扉を開くための挑戦を実践し、地域に必要とされる信用金庫となるよう取り組んでまいります。

今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

会 長 宮垣 和生
理事長 森垣 裕孝